

# 即興型ディベート

---

## 研究報告集

*Research Report of PDA Conferences*

大阪コロナホテル

2015年8月10日（月）



一般社団法人 パーラメンタリーディベート人財育成協会

*Parliamentary Debate Personnel Development Association (PDA)*

# 目次

## 【即興型ディベート研究発表会】

- 16:20 はじめに ～即興型英語ディベートの授業導入に向けて～  
大阪府立大学 中川智皓
- 16:30 城南高校の即興型英語ディベート授業実践  
福岡県立城南高等学校、英語科・亀井里香教諭
- 16:40 即興型ディベート授業報告  
筑波大学附属駒場中・高等学校、秋元佐恵教諭
- 16:50 ディベートを授業に取り入れたい！  
「総学」で始めたパラメンタリーディベート初年度中間報告  
和歌山県立那賀高等学校、加藤統久教諭
- 17:00 教室ディベートの適切な評価方法：理論と実践  
岡山清心女子高等学校、マシュー・デーヴィス教諭
- 17:10 終了

## はじめに

### ～即興型英語ディベートの授業導入に向けて～

大阪府立大学 工学研究科 中川智皓

(一般社団法人 パーラメンタリーディベート人財育成協会 代表理事)

この度は、PDA全国高校 即興型英語ディベート合宿・大会2015にご参加いただき、誠にありがとうございます。

一般社団法人 パーラメンタリーディベート人財育成協会（PDA）では、2014年11月の設立以降、学校教育向けの活動として、2015年3月に全国高校教員向け即興型ディベートワークショップや全国各地における即興型英語ディベートの推進活動を行っております。今回の合宿では、即興型ディベート研究発表会というディスカッションの場を設け、学校での即興型英語ディベートの授業導入の実践例、工夫、問題などを教員間で共有し、よりよい実践につなげるための方法を考えていけましたらと思います。特に、限られた授業時間内、カリキュラムなど様々な制約がある公式な授業における実践には多くの工夫と努力が必要であることと思います。より効果的に、また楽しく授業推進ができるヒントが研究発表会から生まれましたら幸甚です。

パーラメンタリーディベートでは、英語での発信力、論理的思考力、幅広い知識・考え方、プレゼンテーション力、コミュニケーション力などの総合的な力が同時に身に付きやすいといった特徴があります。多様な考え方を理解し、そのうえで自分の意見を簡潔に主張する力がより重要となってくるこのグローバル社会において、パーラメンタリーディベートは時代に合った教育方法の一つではないかと思います。公教育の中で、広くパーラメンタリーディベートが普及されますよう皆様とともに意欲的に取り組んでまいりたいと思います。

研究活動での以下のご支援に対し、心より感謝申し上げます。

文部科学省助成事業 高等学校における「多様な学習成果の評価手法に関する調査研究」、即興型英語ディベートを活用した統合型ルーブリック評価の研究

大阪府立大学 異分野研究シーズ発掘・連携促進・融合領域創成支援事業、パーラメンタリーディベートを用いた総合力の評価に関する研究

※ここでは、パーラメンタリーディベートを通常授業（50分）に導入できる形式にアレンジしたものを、なじみやすい・理解しやすい表現として、即興型英語ディベートと呼んでおります。

## 城南高校の即興型英語ディベート授業実践

福岡県立城南高等学校（英語科）

### (1)はじめに

- 本校のディベートとの出会いは4年前。SSH事業で、海外でプレゼンする生徒の指導のため。
- 「受験勉強にも効果的では」と思い、昨年度一年生からディベートを英語の授業に導入する。

### (2)実践内容

#### ＜ディベート指導の流れ＞

- 昨年度は一年生「コミュニケーション英語Ⅰ」の授業で実施。全体に入門指導をしたあと、各クラスに分かれ、合計で6回試合を実施。12月に中川先生と学生・社会人による指導をいただき、1月末にも中川先生をお招きして、教員向けにご指導いただいた。
- 本年度は一年生「コミュニケーション英語Ⅰ」。二年生「コミュニケーション英語Ⅱ」でディベート指導を実施中。昨年同様、中川先生のご指導を受けるほか、クラス対抗戦などを企画予定。

#### ＜ディベート指導の実際＞

- 一年生は形式に慣れさせ、できるだけ英語で意見を述べさせるため、指導教員が試合進行。ジャッジの判定は無く、試合後対戦相手とフィードバックをする。
- 二年生は生徒に試合進行とジャッジも担当させている。1クラス40人を12のグループに分け、全グループが肯定・否定・ジャッジをローテーションで担当する。二年生の目標は、制限時間いっぱい、「内容のある」議論をすること。また、他人の意見を客観的に評価すること。

#### ＜今年度二年生の取り組み＞

- 生徒による試合評価を実施。生徒は真面目に取り組んでおり、前向きなコメントもできる。
- 生徒によるディベートの運営を実施。各クラスにディベート委員を置き、連絡調整に当たらせている。また、各クラスにワークシートなどを入れるレターケースを設置。授業で配布する手間が省けている。クラス対抗ディベート大会（9月・2月）の運営も生徒に行わせる予定。論題候補の提案（最低3つ、時事問題1つ含むこと）を夏休みの課題としている。
- ディベートの実技評価を行う予定である。生徒が試合進行をしているので、教員は1つのグループに張り付いて評価ができる。2学期・3学期に、ディベート評価ウィークを設定する予定。複数の教員で評価するなどの工夫が必要。定期考査でのディベートに関する筆記問題とともに、実技の評価も成績に入れていく予定。

### (3)まとめ

- 生徒のライティングの成績アップ（GTECのスコア分析より）
- スピーチの実技評価（英語表現Ⅱの時間で2週間に1回実施）を行っていて感じることは英語でのスピーチ・プレゼンへの抵抗感がないということ。
- 来年度の目標は、ディベートを用いた受験指導。
- 今後の課題は、ラウンドの後のフィードバック。

## 即興型ディベート授業報告

秋元 佐恵

筑波大学附属駒場中・高等学校

### (1)はじめに

昨年夏の本合宿・大会で即興型ディベートを体験し、授業で試してみたいと思うようになった。この発表では、高校2年の授業での試みを紹介し、今後の課題について、共有したい。

### (2)実践内容

- ・実施クラス：高校2年（男子41名）×4クラス
- ・授業名：コミュニケーション英語Ⅱのうち、週1時間のTT(25点分の評価)。
- ・実施期間：2014年度2学期・3学期
- ・目的：ディベートの方法に慣れる  
英語力（とくにスピーキング能力）を高める
- ・方法

#### ①モデルディベートの提示&フローシート練習

（「授業のできる即興型英語ディベート」より）

#### ②ディベート実践： We should abolish the death penalty.

6名×6チームで同時開始。残り5名+AETはJudge。授業者はChairperson.

#### ③ディベートテスト

あらかじめチームを組み、6つ与えた論題のうち1つを選ぶ。

Government / Opposition は当日発表。

教師（授業者とAET）が各スピーカーを評価する。

1時間に2ラウンド×3回で終了。

### (3)まとめ

良かった点：学年全員がディベートのフォーマットを学べた。スピーキングの訓練ができた。

今後の課題：準備15分+対戦、という本来の方法がとれなかった。

（教師一人で複数グループを見るのが不可能なため、1度に1ラウンド。）

評価やジャッジ方法の工夫必要。

### 参考文献

中川智皓『授業のできる即興型英語ディベート』2014年

小林良裕『高校生のための初めての英語ディベート』2009年

# ディベートを授業に取り入れたい！ 「総学」で始めたパラメンタリーディベート初年度中間報告

加藤統久

和歌山県立那賀高等学校

## (1)はじめに

報告者は、知識・理解と技能習熟を中心にした授業展開を脱したいと考えてきた。情報を整理し、自分の考えをまとめ、発信する力が付く授業への転換が必要であると感じている。そのような授業展開の中で、高い英語力が養成されると考えている。昨年度、他校の即興型ディベート導入の様子を見学する機会があった。その後教員を対象とした研修への参加や、勤務校に講師を招いて実施した、生徒対象の一日講習会の経験を通して、即興型ディベートを通年開講の授業に取り入れるための情報を集めた。

本報告は、本年度4月に開講した2学年対象の即興型ディベート講座を3ヶ月あまり担当した様子について伝えるものである。

## (2)実践内容

●対象者：2 学年 2 クラス（18名×2）

●講座名称：「総合的な学習の時間」（1 単位）

※生徒は、年度初めの説明会で各講座の内容説明を聞き、自分の希望講座を選択する

●担当教員：日本人英語教員 2 名（1 名 1 クラス担当）加藤（報告者）・長谷部

ネイティブ教員 1 名 (FLT) 2 クラス担当 Elaine

英語アシスタント教員 1 名 2 クラス担当 豪州の提携校から招聘

※1つの授業は、日本人 1 名とネイティブ 2 名の計 3 名で 18 名を担当する

●これまで取り扱ったテーマ

• Naga High School should abolish school uniforms. （説明会で使用）

• Japanese food is better than western food for breakfast. (4/20 ・ 4/27 )

• NAGA High School should allow the students to have part-time jobs after school or on weekends.

( 5/11 ・ 5/25 ・ 6/1 ・ 6/8 ・ 6/15 )

• High school students should experience study abroad while they are in high school

( 6/22 ・ 6/29 ・ 7/13 )

## (3)まとめ（これまでの実践で見えて来た「課題」と「効果」）

➤ 学習集団の形成

➤ 講座の回数、頻度、学習スタイル

➤ 担当教員の特性を生かすには

➤ 生徒のそもそものディベート力を養成する学校全体のしくみの必要性（日本語能力・語彙力・思考力）

## 教室ディベートの適切な評価方法：理論と実践

デーヴィス・マシュー (DAVIS Matthew)

岡山清心女子高等学校

### (1)はじめに

Various evaluation methods from competitive debate have been adapted to classrooms. While convenient, this can be problematic as evaluation purposes do not overlap. In this presentation, theoretical guidelines for evaluation of EFL-classroom debate and their implementation will be discussed.

### (2)実践内容

#### A. Theoretical Guidelines for Evaluation of EFL Debate in the Classroom

The following guidelines will be adopted to the author's courses: the purpose of evaluation is a mix of 'diagnosis' and 'progress and grading', content is communicative proficiency, the frame of reference is criterion-based, the measurement scale is ordinal, and the scoring is subjective (Bachman 1990).

#### B. Theoretical Guidelines in Practice

The below table is an overview of a possible evaluation method for use over various periods of time for debate activities in a high school EFL course. All instruments are criteria-based rubrics.

Time Period		Purpose	Example Instruments
Unit	Debate Activity	Progress/Grading	Quality of peer evaluations and student reflections.
	Post-Activity	Progress/Grading	Improvement-oriented assignments stored in a portfolio.
Term	Continual	Diagnosis	Using student portfolio to adjust activities and content.
	Final	Progress/Grading	Summative proficiency test on a limited debate task.
		Diagnosis	Administering a debate skills self-evaluation survey.
Year	Beginning	Diagnosis	Administering a debate skills self-evaluation survey.
	Continual	Diagnosis	Using student portfolio to adjust activities and content.
	Final	Diagnosis	Administering a debate skills self-evaluation survey.
		Progress/Grading	Summative evaluation of a completed portfolio.
		Progress/Grading	Summative proficiency test on an extended debate task.

### (3)まとめ

Defining theoretically appropriate evaluation is an important and overlooked first step. However, reaching consensus on valid criteria for reliable evaluation and testing remains.

### 参考文献

Bachman, L. F. 1990. *Fundamental Considerations in Language Testing*. Oxford: OUP.

---

即興型ディベート研究報告集 PDA15-1

発行日 2015 年 8 月 10 日

発行所 一般社団法人 パーラメンタリーディベート人財育成協会

大阪府堺市中区学園町 1-1 大阪府立大学 工学研究科 機械工学分野 中川研究室内